

特別講演 2

「生活習慣病と骨粗鬆症の接点」

虎の門病院 内分泌センター 部長

竹内 靖博 先生

高齢者の自立維持のためには、脳血管障害と骨折の予防が重要である。前者の背景には2型糖尿病や高血圧症などに基づく動脈硬化症があり、後者の原因は骨粗鬆症である。降圧薬や骨粗鬆症治療薬による適切な治療は、脳血管障害や骨折を減らすことができることが実証されており、積極的な介入が望まれている。さらに、最近では2型糖尿病を中心に、生活習慣病の病態が骨粗鬆症の発症ならびに骨折リスクの増大に関与することが明らかにされつつあり、生活習慣病を管理する医療従事者が、骨粗鬆症に対して積極的に関心を持つ必要性が強調されている。骨粗鬆症は閉経などの性腺機能低下と加齢に基づく代謝性骨疾患であり、広い意味では生活習慣病の概念で理解されるものである。これらのことを理解した上で、高齢者に対して、より効果的な骨折予防策を講じていくことが望まれる。